

博士論文の要旨及び審査結果の要旨

氏名 清野 由美子
学位 博士 (保健学)
学位記番号 新大院博 (保) 甲第 40 号
学位授与の日付 令和 3 年 3 月 23 日
学位授与の要件 学位規則第 4 条第 1 項該当
博士論文名 精神科病院における誤嚥性肺炎予防のケアに関する研究

論文審査委員 主査 関 奈緒
副査 内山 美枝子
副査 清水 詩子

博士論文の要旨

摂食嚥下障害では向精神薬の有害反応や精神症状の影響が指摘されている。精神科病院における肺炎の多くが高齢者の誤嚥性肺炎と考えられ、救命できたとしても禁食による低栄養や安静臥床に伴う ADL の低下を招き QOL に影響を及ぼすとされるが、嚥下機能の評価およびリハビリテーションなどの専門的支援が可能な施設は皆無に近く、さらに看護師の摂食嚥下障害支援への関心の低さも指摘されている。本論文では、精神科病院における誤嚥性肺炎の予防に着目し、臨床現場の現状を明らかにした上で、精神疾患患者の食べることを支えるための支援および具体的なケアを 3 つの研究により検討した。

研究 1 では精神科病院の病棟看護師 55 名を対象にフォーカスグループインタビューを基に質的帰納的に分析を行なった。その結果、【精神科における誤嚥性肺炎予防ケアの困難】【目前の誤嚥・窒息リスクを回避したいという強い思いに基づくケア】【食べることの QOL を志向したケア】【誤嚥性肺炎予防に有効とされる日常生活援助】【精神科医療の強みを活かすチームケア】などが実践されており、院内多職種と協働で包括的なアセスメントやケアに取り組むことの必要性が示唆された。

研究 2 では、精神科病院の NST メンバーが誤嚥性肺炎予防を踏まえて提供するケアの現状と課題を明らかにした。NST を有する精神科病院の NST メンバー 31 名によるフォーカスグループインタビューを基に質的帰納的に分析を行なった。その結果、精神科病院 NST メンバーは、【経口摂取に伴う誤嚥の防止】【体力・栄養状態の改善】、【不顕性誤嚥による肺炎の回避】【精神科医療チームによる食支援】の実践に努めていたが、【摂食嚥下障害への対応における困難】【精神科 NST 活動における困難】という課題が存在することも明らかとなった。食べることを支えるチームアプローチとして、NST 本来の力や各専門職の強みを活かしつつ、部署・職種の枠を超えた柔軟な多職種連携を行うことが重要と示唆された。

研究 3 では、精神科病院入院患者における誤嚥性肺炎リスクの影響要因を明らかにし、予防に向け

た支援への示唆を得るために、病棟内食堂で食事摂取可能な精神科病院入院患者 100 名を対象とし誤嚥性肺炎リスクにより低リスク群と中等度リスク群との 2 群に分け、統計学的検討を行った。その結果、誤嚥性肺炎リスクに有意に影響する因子は BMI, PEF, RSST であり、誤嚥性肺炎予防に向けた支援ではこれらの因子に着目したアセスメントを行うとともに、栄養状態や呼吸機能、嚥下機能の維持改善を目指す取り組みの必要性が示唆された。

審査結果の要旨

1. 保健学における研究の価値と貢献

本論文は、精神科疾患患者での向精神薬の有害反応や精神症状が摂食嚥下障害に影響を及ぼし誤嚥性肺炎を引き起こす危険があることから、精神科病院における誤嚥性肺炎の予防に着目し、臨床現場の現状を明らかにし、精神疾患患者の食べることを支えるための支援および具体的なケアを検討しており、新規性、有用性、信頼性のいずれも秀でており、保健学（特に看護学分野）に貢献する優れた論文であると、判断した。

2. 論文構成と内容に関する審査

本論文は、第 1 章 序論、第 2 章 研究 1、第 3 章 研究 2、第 4 章 研究 3、第 5 章 結論で構成されており、論文の趣旨を把握するために、各章の内容は十分に詳細に書かれている。題目・目的／背景・方法・倫理的配慮・結果／図表・考察・結論・引用文献などの項目について審査を行った。当論文は、研究 1 では精神科病院の病棟看護師 55 名を対象にフォーカスグループインタビューを基に誤嚥性肺炎予防のための日常生活援助等について質的帰納的に分析を行ない、研究 2 では精神科病院の NST メンバーによるフォーカスグループインタビューを基に誤嚥性肺炎予防を踏まえて提供するケアの現状と課題を質的帰納的に分析し、研究 3 では、精神科病院入院患者における誤嚥性肺炎リスクの影響要因について分析している。統計学的検討では、Mann-Whitney U 検定、 χ^2 検定、ロジスティック回帰分析等を適切に用い、また倫理面に関しては新潟大学倫理審査委員会の審査・承認を得て行っている。以上のことから題目・目的ならびに背景・方法・倫理的配慮に関しては十分な内容であると判断した。研究の結果を適切な図表を用いて示しており、研究での限界についても述べながら、適切な引用文献を用いて十分な考察を行っていた。これらのことから、以下の点を全て満たしていると判断した。

- ・タイトルが、論文の趣旨を捉えており明解で簡潔である。
- ・目的と背景が、明解かつ簡潔に記されている。
- ・理論／方法が、正しく論理的であり、客観的に明解に記述されている。
- ・結果が、正当で、図、写真、表が適切であり、客観的・論理的に記述されている。
- ・考察が、正当で客観的・論理的であり、著者の主張や結論を支持するデータが十分である。
- ・結論が、目的に対応して適切に導かれており、記述が簡潔である。

- ・引用文献が、本文中に現れた順に適切に参照されている。
 - ・表が、見やすく、数や表現が適切ある。
 - ・図、写真が、見やすく、数や表現が適切ある。
 - ・キャプションが、明解で適切である。
 - ・書式が、適切である
- よって、論文構成およびその内容は学位論文としての要件を満たすものであると判断する。

3. 総括

審査の結果、本論文は保健学博士(保健学)の学位論文として十分な価値を有するものとする。

